

# 宇宙データ利活用を念頭に置いた新しい組織・体制

---

(応募者:個人 プレゼンテーション資料)

# 背景

## 背景・課題

- 宇宙分野の技術革新と第4次産業革命が相まったイノベーションの進展により、新たなパラダイムチェンジが始まっている。
- 宇宙データの扱いには一定の専門性とコストが必要であり、データ利用のハードルが高い。
- 日本の宇宙産業は国際社会の中で遅れを取っている。

## 研究者の実態

- **研究者1人が基礎研究からデータ利活用までを全て行うことは、現実として厳しい。**

(この問題は分野に関係なく起きていると思われるが、データの取り扱いに高い専門性が要求される宇宙データ利活用分野においては特に厳しい状況にある。)

### イノベーション創出に向けた仕組み

MICイノベーション創出  
委員会資料より抜粋



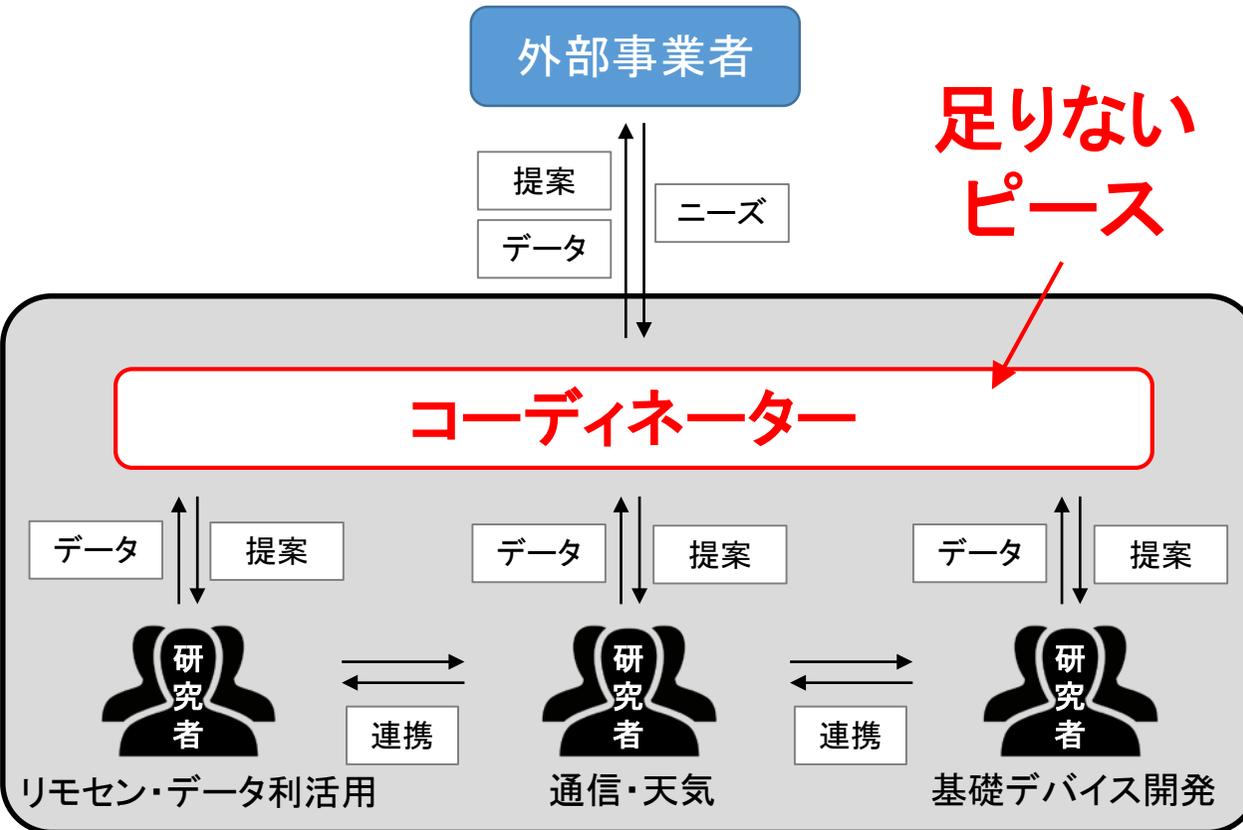
「ビジネスモデル実証フェーズ」

必要なもの：一体となって「死の谷」を超えていく組織・体制

# 新しい組織・体制

## 「革新的産業創出」と「基礎研究への専念」を両立する組織の実現

事業者の持つニーズと研究者の持つシーズを**マッチング**させるコーディネーターが必要



### 外部事業者

- 新産業・新ビジネスに足りない技術の提案や補填。
- 技術開発コストの低下。

### コーディネーター

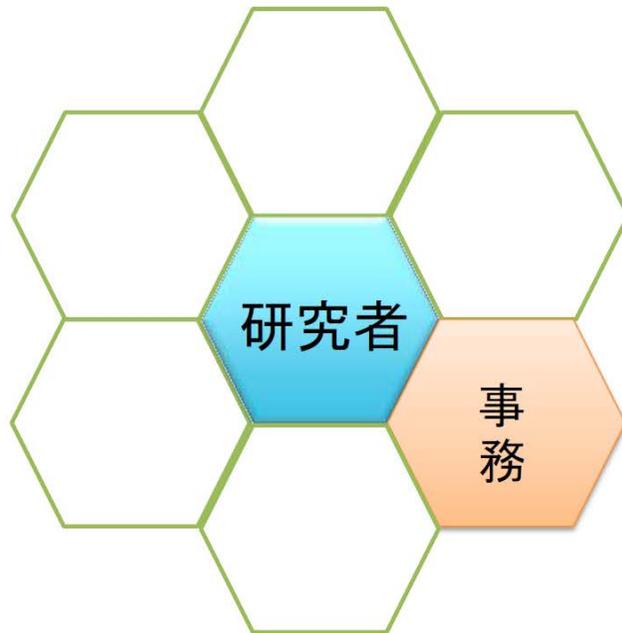
- 外部事業者と研究グループとの仲介を行い、データの説明や提案を行う。
- 組織内の研究グループを俯瞰的に捉え、互いの連携を促進。

### 研究者

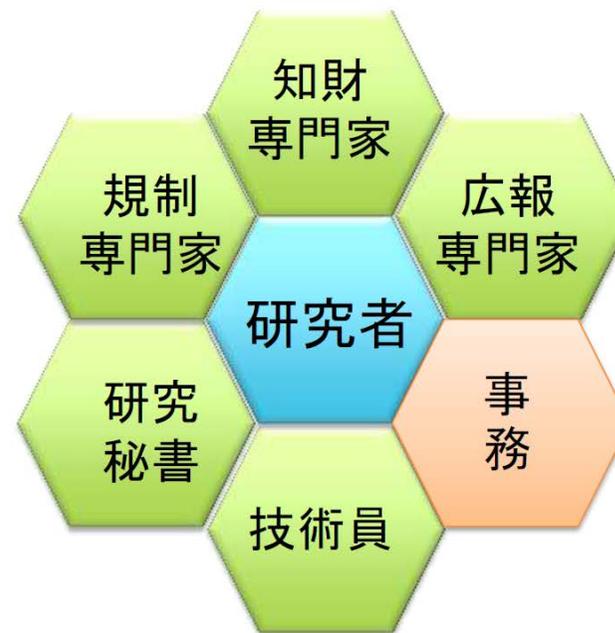
- ニーズを理解し、その実現のために必要な基礎研究に専念。
- 専念することで、より短期間で研究成果が出せる。

# 参考資料：日本と欧米の研究支援人材の比較

## 日本



## 米国、欧州 シンガポールetc



総合科学技術会議(第105回) 京都大学山中教授 説明資料より抜粋